

保健体育科学習指導案

日 時 平成30年6月1日(金) 公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年CD組(男子17名, 女子18名)
会 場 体 育 館
授業者 高 橋 走

1 単元名 E 球技 ネット型 「バレーボール」

2 単元について

(1) 生徒観

対象の生徒は1年時にラリーを続けることをねらいとしたタスクゲームを中心に、バレーボールの授業を行っている。3年時の事前のバレーボールに対する意識調査において、「バレーボールを行うことが好きか」尋ねたところ、6割の生徒が、「好き」、「どちらかと言えば好き」と回答している。また、「どんな時に楽しいか」という問いに対し、「得点を決めたとき」、「ボールをつないだとき」、「ねらい通りにボールをコントロールできた時」とボールに関わる機会が多ければ楽しいという傾向がある。一方、「どちらかと言えば嫌い」、「嫌い」という生徒は、「ボールコントロールが苦手」、「突き指」、「腕が痛くなる」「運動することが苦手」など、運動に対する自信の無さから、身体的な痛みや思い通りにプレイできないことが他に迷惑をかけてしまうなど、心理的な不安要素が大きいと感じた。

このことから、肯定的なフィードバックを多く行い、ボールコントロールにストレスをかけずにみんなが授業を行えるようにする工夫が必要である。そして、「ボールをつなぐこと」、「ラリーを続けること」で十分に仲間と協力する場をつくり、バレーボールの特性が味わえるように、実態に即したルールや条件のタスクゲームを組み入れていくことが必要と考える。また、チームプレーを創りあげていくためにも、チーム内で試行錯誤を繰り返させながらチームワークと仲間と連携した動きを高めさせていきたい。

この単元を通して、チームの状態や作戦について話し合い、仲間と協力して練習することで、個やチームの技能が高まることを実感させ、本校保健体育科がとらえる「学びの本質」を身に付けさせていきたい。

(バレーボールは好きか?)

好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
7人(20%)	16人(46%)	9人(26%)	3人(8%)

(2) 教材観

バレーボールはネット型の種目で、ネットをはさんで相対するチームが、空中にあるボールをサービス、パス、トス、スパイク、ブロック、レシーブなど、主に手や腕を用いてボールを打ち合い、得点を競い合うスポーツである。サービスやアタックを工夫して相手のミスを誘ったり、戦術を工夫して攻めたりして、いろいろなチームと勝敗を争うところに楽しさがある。

相手チームとの身体接触が少ないことから、年齢層も広く、男女で親しまれるスポーツでもある。また、相手チームにボールコントロールを邪魔されることもないため、チームの作戦が立てやすい。その反面、ボールをボレー(はじく)する感覚は普通の運動経験ではあまり体験することがなく、ボールコントロールに苦勞することが多い。そのことで苦手意識を強くしてしまう傾向がある。しかし、チームみんなが協力して技能を高めたり、チームの作戦について話し合ったり、練習に励んだりすることで、協力、参画、共生の態度を高めることができる教材である。

対象の生徒は、3年生であることから、ポジションの役割に応じたボール操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートに空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにさせたい。1年生の時にバレーボールの特性に触れていることから、今回の単元の前半では、全員でつなぐことをねらい、「ボールをつないでネットをはさんだゲームを楽しむこと」を目指したい。後半では、空いている場所へボールを打ち返すことをねらい、「ラリーを中断させるスペースをねらったゲームを楽しむこと」を展開したい。コートやネットの高さ、ボールコントロールについての条件を工夫し、タスクゲームで「つなぐこと」「空いている場所をねらうこと」を表出させやすくしながら、達成感を味わわせることにより、生涯にわたってスポーツを楽しむ資質を身に付けさせていきたいと考える。

(3) 「学びの本質に迫る指導とその評価」について

①学びの本質に迫る指導

【見方・考え方を働かせる学びのプロセス】

I 課題を把握する

- ・目指す動きと自己の動きの比較による複数の「違い」を把握する。
- ・目指す動きと自己の動きの違いをとらえ、改善すべきポイントを見付ける。
- ・目指す動きに近づけるためにもっとも重要だと考えられるものを見つけ出し、それを課題としてとらえる。

II 自己の課題を改善できる練習を選択する。

運動実践の場面で、自己の課題に応じて適切な練習を選ぶ。

III 学習した知識や技能を活用して、自己や仲間の課題に応じて解決する。

- ・お互いに出来映えを相互評価し、よりよいものを目指す。
- ・作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切にかかわる。
- ・思考、判断したことを、根拠を示しながら相手に伝える。

IV 自分の学びを振り返る、運動の特性をとらえる。

- ・学習を振り返り、どのような力が身についたかということを自覚的に振り返り、次の場面に役立てる。
- ・各種目の運動のそのものの本質的な価値をとらえる。

学びの本質に迫る指導は、以下の通りである。

【視点1】「問い」が生まれる学習課題の工夫

①授業の導入では、生徒自身が自分のこととしてとらえるように、前時の振り返りを活用し、自分や学級の仲間の実態に基づいた資料提示をし、既習内容を想起させる。【前時の振り返り提示】

②iPadを活用し、生徒が映像で目指す動きと自分の動きとの違いを把握させる。【iPad活用】

【視点2】生徒の学びを深めるプロセスの工夫

①学びを深めるかかわり合いの工夫。【学習形態の工夫】

②生徒の「問い」が継続する教師の手立て。

(導入) → 「既習内容」や「概念」を問う。

(展開1) → 「根拠」、「方法」、「関連」を問う。

(展開2) → 「よりよい考えや表現を求めて」問う

(終末) → 「よさ」、「根本概念」を問う。

②学びを深める評価【視点3】

～学びの本質に迫るための評価～

【めざす姿から逆算して「指導と評価の計画」を作成。(単元デザイン)】

- ・単元計画では、評価の機会に着目した「単元構造図による指導内容と学習の流れ、評価機会と方法の計画」を作成し単元の中で評価機会をより吟味する。

【指導や学習のための「課題解決としての評価」】

- ・「はじめの姿→めざす姿→最終的にめざす姿」を明確に共有し、教師と生徒、生徒同士フィードバックする。
- ・学びを深めるかかわり合いの場面で、生徒とのやりとりの中で思考が見える化する。
- ・iPadを活用し、教師の評価を伝える。(生徒の評価と教師の評価のすり合わせ)

【学習カードの工夫(技能チェックシート活用)】

- ・単元での変容を見とることができる形式。

～学びの本質に迫ったかを見とる評価～

【評価基準の具体化】

- ・生徒と基準の共有。実際の振り返り場面で、生徒の状況を捉えながら基準を共有する。

【振り返りシートからの見とり】

- ・単元での学びを見とる。単元の中でどのように課題解決を図ってきたのか、思考が見える形で振り返ることができるような内容で問う。

3 単元の指導目標及び評価規準

(1) 指導目標

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。バレーボールでは、役割に応じたボール操作や安定した操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。(知識及び技能)
- ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 評価規準

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開している。
【運動や健康についての知識及び技能】
- ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて、運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。
【運動や健康についての思考力・判断力・表現力等】
- ・バレーボールに自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保している。
【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画・評価計画

(1) 指導計画（16時間）

時数	学習内容	活動内容
1	○授業のねらいや約束、学習計画を理解すること。 特性や歴史について理解すること。(知識①) ○学習に自主的に取り組もうとすること。(態度①)	・オリエンテーションを行い、バレーボールの授業のねらいや約束、特性や歴史、学習計画を学習シートに記入する。
2	○健康・安全に留意すること。(態度④) ○ラリーの中で、コートの中を空いている場所をカバーすること。(技能⑧)	・『ラリーを続ける、つなぐバレー①』（レシーブトス中心）を行い、仲間のカバーをすること、チームの中でつなぐことを意識する。
3	○ボールをつなぐための動き方を分析、観察し、理解すること。(知識④) ○高さを意識したトスの行い方を身につけること。(技能⑥)	・トスの行い方を確認し、ポイントを練習する。 ・トスの行い方を学習シートに記入する。 ・「つなぐために必要なことは何か」という視点から、これから身に付けていきたいことを学習シートに記入する。
4	○相手を尊重するフェアプレイ大切に、ゲームを行うこと。(態度②)	・『ラリーを続ける、つなぐバレー②』（相手コートに返し、相手と連携してつなぐ） ・フェアプレイの内容に、学習シートに記入する。
5 6	○三段攻撃をすること。(技能⑦) ○作戦などの話し合いに貢献すること。(態度③)	・『ラリーを続ける、つなぐバレー③』を行い、三段攻撃を意識しながら、つなぐ。
7	○作戦に応じて技能の発揮するポイントに関連づけて、理解すること。(知識②)	・『ラリーを続ける、つなぐバレー④』を行う。 ・チームの作戦に応じた技能ポイントについて学習シートに記入する。
8	○空いているスペースに打ち返すことができること (技能⑤)	・『空いているスペースをねらうバレー①』空いているスペースを意識して打ち返す練習を行う。

9	○チームの課題にあった練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。(思・判・表②)	<ul style="list-style-type: none"> 『空いているスペースをねらうバレー②』を行う チームの課題にあった練習方法の選択について、自分の考えをチームに伝えて練習を行う。
10	○健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。(思・判・表③)	<ul style="list-style-type: none"> 『空いているスペースをねらうバレー③』を行う コンビネーションプレーを活かした作戦が実行できる練習を行う。 よりよく作戦を実行するための練習方法について学習シートに記入する。
① 11 本時	○選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。(思・判・表①)	<ul style="list-style-type: none"> 『空いているスペースをねらうバレー④』を行う 前時のゲームから、個やチームの状態をとらえ課題解決のためのよさや改善すべき点をとらえ試合を行う。 理想の動きとの違いや成果や改善すべきポイントその理由について学習シートに記入する。
12 13 14	○ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができること。(知識③)	<ul style="list-style-type: none"> リーグ戦①～③を行う。 ゲームに必要な技術、関連した練習を継続して行うことで高まる体力について、学習シートに記入する。
15 16	○球技を継続して楽しむための自己に適したかわり方を見付けている。(思・判・表④)	<ul style="list-style-type: none"> リーグ戦④・⑤を行う。 単元を通して学習したこと身についたことや球技を継続して楽しむための自己に適したかわり方について学習シートに記入する。

(2) 単元及び学習活動における具体の評価規準

知識及び技能	<p>①バレーボールにおいて用いられている技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて学習した具体例を挙げている。</p> <p>③ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>④練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。</p>
	<p>⑤ボールを相手側のコートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。</p> <p>⑥攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。</p> <p>⑦ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。</p> <p>⑧ラリーの中で、味方の動きに合わせてコートに空いている場所をカバーすることができる。</p>
思考力、判断力、表現力等	<p>①選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</p> <p>②自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>③健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返りをしている</p> <p>④球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</p>
主体的に取り組む態度	<p>①球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>②相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。</p> <p>③作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。</p> <p>④ボールなどの用具の扱い方、練習場所など健康・安全に留意している。</p>

(3) 単元構造図による指導内容と学習の流れ, 評価機会と方法の計画

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
学習の流れ	運動の特性や学習のねらい計画を理解する	(準備運動、今日の学習内容)		(準備運動、今日の学習内容の確認)				フットワーク			基本スキル練習							
		フットワーク・基本スキル練習		「キャッチ」と「はじく」の両方を使いながら落とさないでつなげることができるか、できないかを競い合うことを楽しむ。				相手のラリーを中断させることを競い合うことは、自分たちは落とさないでつなげるかを競い合っているということ。この関係がバレーボールの競い合いの面白さに気づく。			相手のスペースをねらって相手のラリーを中断させることができないかを競い合うことを楽しむ。							
指導と評価の機会	知識・技能	技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法を理解する。																
		①特性歴史ねらい約束学習計画			④観察・分析				②攻防のポイント						③体力の高め方			
思考力・判断力・表現力等		「拾う、つなぐ、打つ」といった一連の流れで攻撃を組み立て、相手側コートに空いた場所をめぐる攻防を展開するための個人技能や仲間と連携																
		⑥カバーする動き			⑥トスの行い方			③三段攻					⑤空いているスペースへ打つ					
主体的に取り組む態度		バレーボールの楽しさや喜びを味わうことができるよう、学習に自主的に取り組む。																
		①自主的に取り組む			④健康・安全			②フェアプレイ				③作戦、話合いに貢献						
評価機会と方法	知識・技能	①☆			④☆				②☆					③☆				総合的評価
	思判表現態度	①	④					③				②☆	③☆	①☆			④☆	

【評価方法】

○指導の機会 ←●→ 観察評価期間, VTR による判断 ☆学習プリントなどによる評価・定期テスト活用

5 本時について（11/16時間）

（1）主 題 球技 ネット型 「バレーボール」

（2）指導目標

○バレーボールの合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善をすべきポイントとその理由を仲間に伝えること。（思考力・判断力・表現力等）

（3）評価規準

○バレーボールの合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。【運動についての思考力・判断力・表現力等】

（4）指導の構想

本単元は、16時間扱いの設定。単元前半では、「ボールをつないでネットを挟んだゲームを楽しもう」というテーマで競争を楽しむことをねらう。「つないで相手コートに返すために必要な動きはどのようなものか」、局面を分けながら、一人一人の役割を伝えながら、ボールを落とさないことにこだわって進めたい。「ボールをつなぐ」という面白さに十分触れた後で、「ラリーを中断させるスペースをねらったゲームを楽しもう」というテーマで楽しむことに移行する。ネットが分断されているゲームにおいて、自分たちで落とさないゲームの競い合いに勝つことを目指したい。そして、そのためには、相手のチームにつながせないようにすることというバレーボールの競い合いの構造にまさに即したものである。相手のコートの「人のいないスペース」にボールを落とすこと（相手の守備を突破すること）を競い合うことが面白さの本質を求めていきたい。

本時は、単元の11時間目にあたる。理想の動きを目指し、今現状の自分たちの姿と比較して、より改善するための手立てを伝え合いながら、展開していきたい。本時は、チームの三段攻撃のパターンについて、自分たちのチームに合った攻撃パターンをよりよくするために、理想の動きと比較しながら、よいところや改善点を伝え合い、よりよい動きを目指していきたい。

導入では、音楽に合わせて、バレーボールの動きを中心に「ウォーミングアップドリル」で、基本動作を反復し、授業のリズム、勢いをつくる。男女が楽しく、「ナイス」「ドンマイ」「ハイタッチ」の明るい雰囲気、心を温めていきたい。

展開では、前時の映像資料から、本時の課題を考えさせ、本時の流れを確認し、学習内容、学習方法を確認する。映像では、攻防ができていく動き（理想の動き）と自分たちの現状の違いを捉えられるようにしたい。「チームの三段攻撃のパターンをゲームで発揮するための必要な動き」について、良いところや改善点を共有しながら進めたい。常に、ボールを拾う、つなぐということは意識しながら、そこから「つなぐ」「打つ」という局面ごとの課題を捉えさせ、お互いにレベルアップさせたい。iPadや観察記録、学習カードを用いて、自分たちの課題を明確に捉えるようにさせたい。授業の中で、「はじめの姿」として、練習において、自分たちのやりたいパターンの攻撃がうまくできているのか、うまくできていないのか、またその出来映え、その理由を共有したい。次に、ゲームⅠの中で、「目指す姿（途中）」として、理想の動きとの違いを伝えること、ゲームの中で発揮するために必要なことを伝えることができるようにしたい。それらを意識したゲームⅡを終えた後に、「最終的に目指す姿」として、理想とする動きに対し、あらためて、自分たちの動きでよかったところ、できるようになったところを確認させ、さらに次に向けての改善点を伝え合うことで、よりよい三段攻撃の動きにつなげていきたい。これらを具体的にイメージし、生徒とのやりとりの中で、効果的なフィードバックや問う内容を整理して、生徒が今の自分たちの状況をとらえながら、1時間の変容を感じることができるようになりたい。

(5) 本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時間 (分)	指導上の留意点および評価 ■学びの本質に迫る指導の手立て ○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価
導入	1 集合、あいさつ、健康観察をリーダー中心に協力して行う。 2 準備運動を行う。 3 バレーボールのウォーミングアップドリルを行う。 : 音楽に合わせてつなぐバレーボール、全員がボールにかかわることのできる体の動きを取り入れる。	15	
展開	4 課題把握をする。 前時の映像資料から、観点を与え、課題を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">○連携した動きのよさ、改善すべきポイントを伝え合おう</div> 5 チーム練習を行う。(対戦チームと練習) A、B、C、3つのパターンを練習する。 チームでねらう動きを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">はじめの目指す姿 共有する 状況をフィードバックする。</div> 6 ゲームⅠを行う。チームの状況を観察する。 (理想の動きと比較する) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">目指す姿(途中) 共有する 状況をフィードバックする。</div> 7 ゲームⅡを行う iPadで撮影 ◎よい動きを価値づけること、なぜよい動きになっているかを問うことで動きのポイントを意識できるようにする。 8 出来映えを確認、振り返り <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">最終的に指す姿 共有する 状況をフィードバックする。</div>	30	■問いが生まれる学習課題の工夫 ○指導や学習のための「課題解決としての評価①」 →うまくいったところ、できなかったことを伝えること ■生徒の「問い」が継続する教師の手立て →今までの知識の中で予想させ、運動の大切な部分を問う。 ○指導や学習のための「課題解決としての評価②」 →理想の動きとの違いを伝えること。 ○指導や学習のための「課題解決としての評価③」 →自分たちのよさを伝えること。 重要な改善点を伝えること。
終結	9 本時のまとめを行う。 (1) 連携した動きのよさ、改善すべきポイントを伝えることができたか確認を行い本時の授業記録をまとめる。 (2) 学習の成果や課題などのまとめを発表する。 (3) 教師の評価を聞く。 10 整理運動 11 あいさつ	5	■生徒の「問い」が継続する教師の手立て →よさを問う、根本概念を問う(自分の学びを振り返る力) ○学習カードにおける振り返りの状況を確認する。